

元気アップこものスポーツクラブ（三重県菟野町）の事例

～教育委員会との連携で、地元メディアに情報（ネタ）を提供～

Q：どのような内容をどのようなメディアで取り上げられましたか？

「スポーツクラブ 被災地へ義援金」という見出しで、地元の「伊勢新聞」平成24年3月10日付に載せていただきました。

「元気アップこものスポーツクラブ」が設立5年目を迎えた平成22年夏に、感謝祭として「三滝川・燈火まつり」を開催した際、「オリジナルTシャツ」を製作・販売することとなりました。東日本大震災後、クラブでは、平成23年度の「オリジナルTシャツ」売上による利益の一部を、町を通して日本赤十字社へ贈ってもらうことにしました。震災から1年が経つ直前の平成24年3月9日、理事長とクラブマネージャーが町長を訪れて「義援金」を手渡す場面の写真と共に、記事が掲載されました。



Q：どのような経緯・方法で取り上げられましたか？

この記事の掲載に至った経緯は、はっきり言って「ネタ」の売り込みです。我がクラブは町の教育委員会との連携が上手くいっているので、教育委員会から役場に出入りするメディアに情報（ネタ）として提供してもらったわけです。

ただし、いつでも良かったわけではなく、震災後ちょうど1年が経つ前に設定し、話題として取り上げてもらいやすくすることがポイントでした。

新聞社は事件が起こらなければ紙面を埋めることができないので、掲載する記事を集めておかなければなりません。常にあらゆる方面からの情報提供を新聞社は待っています。極端なことを言えば、個人からの売り込みでも公益性が高ければ記事として扱ってもらえると思います。

Q：メディアに取り上げられて良かった点や効果

我がクラブではホームページだけではなく、新聞という公共のメディアに記事が掲載されて、間接的ではありますが、クラブが被災地の復興に貢献しているという情報が伝わり信頼性が高くなりました。

そのため、会員の方々はクラブ員としての誇りが持て、さらに引き続きクラブに貢献したいという気持ちになってもらったなどの効果はあったと思います。

Q：他のクラブへのアドバイスなど

みなさんのクラブでも「総合型地域スポーツクラブ」の役割・意義を明確にして、地域の多くの方々に活動の内容を知ってもらえるよう、新聞社などに売り込んでみてはいかがでしょうか！

そして、どのクラブも市町村の教育委員会と強弱はあるもののつながりがあるはずですので、そのつながりを活かしたり、イベントや教室をこなすだけでなく、話題性を作り出して取材に来てもらうアプローチをかけたりする積極性が必要ですね！

（伊藤弘美 元気アップこものスポーツクラブ クラブマネージャー）

【三滝川燈火まつりの様子】

第3回三滝川燈火まつりが元気アップの主催で開催。町民盆踊り大会と合同開催されました。



【元気アップこものスポーツクラブ プロフィール】

1. 設 立 年月日：平成 18 年 4 月 5 日
経緯：文科省の施策を受け、町内のスポーツ関係者がスクラムを組み、スポーツの普及・振興を柱に、健康・健全・安全な町づくりに貢献できるクラブ作りに着手しました。
2. 地 域 人口：41,299 人（平成 24 年 12 月現在）
特性：スポーツが盛んで、競技に携わる人が多く、人口が微増中。
3. 運 営 会員数：1,250 人（平成 24 年 11 月 30 日現在）
予算規模：3,300 万円（平成 24 年度）
4. 特 徴 こどものスポーツ教室から高齢者の健康づくり教室まで幅広く開催し、地域イベントへの参画にも積極的に取り組んでいます。
5. 連絡先 〒510-1233 三重県三重郡菰野町大字菰野 4775-1
TEL/FAX：059-394-5018
Email：genkiup2005@yahoo.co.jp
URL：<http://genkiup-komono.com/>